

高信頼なストレージ仮想化技術をハイブリッドクラウド全域に拡張、透過的なデータ活用を支援

## 日立、ハイブリッドクラウドデータ連携基盤「EverFlex from Hitachi」提供開始

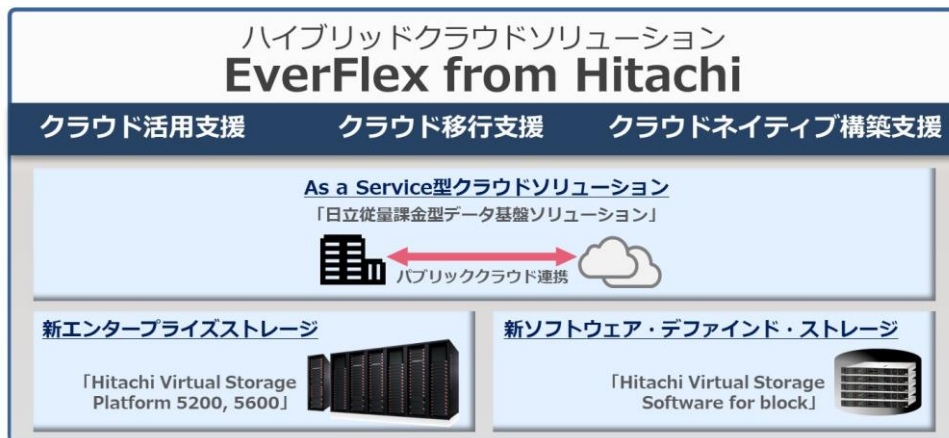
2021年10月06日 07時00分更新

文 ● 大河原克行 編集 ● 大塚 / TECH.ASCII.jp

ASCII.jp

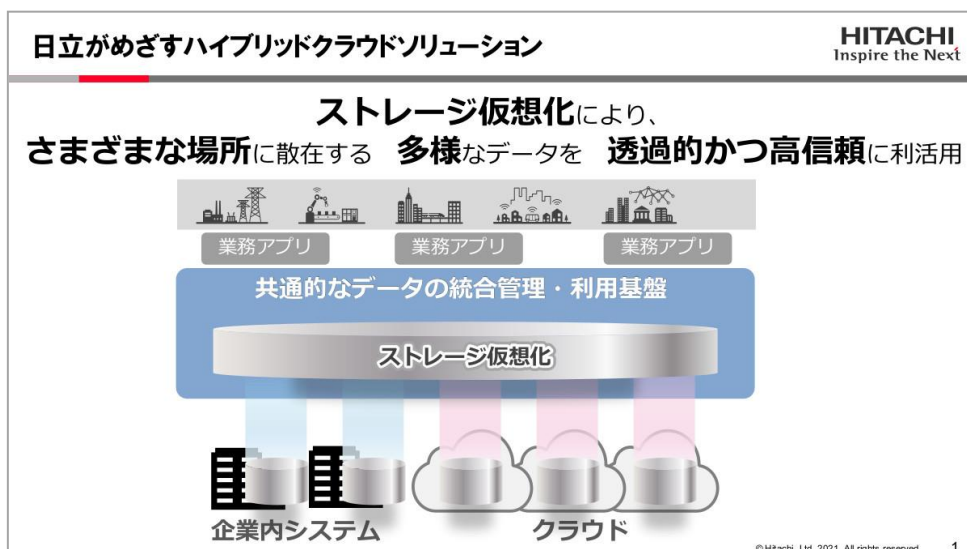
日立製作所は2021年10月5日、ハイブリッドクラウド環境において複数拠点に散在するデータを連携するソリューション「EverFlex from Hitachi」の提供を開始した。オンプレミスの基幹システムで実績を持つ日立のストレージ仮想化技術によるデータ管理、運用ノウハウなどを適用し、安心、安全、シームレスなデータ連携環境を構築するソリューションと位置づけている。

日立製作所 サービス&プラットフォームビジネスユニット IT プロダクツ統括本部 統括本部長の島田朗伸氏は、「EverFlex from Hitachiは、国内はもちろんグローバルにも展開していく。日立のストレージソリューション事業の核となるビジネスに成長させたい」と抱負を語った。



注：各種クラウド連携は、ITシステムのクラウド化を計画策定から移行・構築、運用まで支援する日立の各種サービスと組み合わせて提供

### 日立が発表したハイブリッドクラウドソリューション「EverFlex from Hitachi」の概要



日立が持つストレージ仮想化技術をオンプレミス/パブリッククラウドの両方に適用することで、シームレスかつ高信頼なデータ基盤を実現する狙い



日立製作所 サービス&プラットフォームビジネスユニット ITプロダクツ統括本部 統括部長の島田朗伸氏、同社 サービス&プラットフォームビジネスユニット ITプロダクツ統括本部 事業主管の福田裕一氏

## 高信頼なストレージ仮想化技術をベースに透過的なデータ基盤を実現

EverFlex from Hitachi は、企業システムにおける幅広いクラウド連携シナリオに対応し、顧客ニーズに適したデータ連携基盤を容易に導入／利用することを支援するソリューション／製品群となる。これを提供する背景として島田氏は、多様なデータをリアルタイムに活用して意思決定や戦略／戦術決定に生かす「データドリブン経営」の流れが加速する一方で、データのサイロ化や保存場所の散在、システム間でのデータ連携の困難さ、管理の複雑化といった課題も生まれていることを指摘する。

「日立独自の技術や、実績を持つ仮想化技術を活用することで、これらの課題を解決できる。（EverFlex from Hitachi では）ストレージの仮想化を推進し、クラウド活用支援、クラウド移行支援、クラウドネイティブ構築支援を、顧客のニーズや環境にあわせて提供することで、データドリブン経営の実現に貢献する」（島田氏）

**これからのデータ活用基盤に求められること**

データの所在を意識しない、格納・管理・利用

- データのサイロ化を克服
  - データ管理・運用を統合
  - クラウドリソースも柔軟活用
  - セキュアにクラウド連携

ハイブリッドクラウド環境における透過的かつ高信頼なデータ連携

**日立の取り組み**

ストレージソリューションをハイブリッドクラウドへ拡張

高信頼データ活用基盤を企業内システムからクラウドへ

- 仮想化技術のクラウド展開
- As a Service型

ストレージ製品の継続強化

- 事業継続性の向上
- 処理の高速化・効率化対応
- 環境配慮

これからの企業のデータ活用基盤に求められる要素と、日立の考える解決策の方向性

今回は EverFlex from Hitachi を構成するソリューション／製品群として、「日立従量課金型データ基盤ソリューション」、基幹システム向けの高信頼なエンタープライズストレージ新製品「Hitachi Virtual Storage Platform (VSP) 5200/5600」、Software-Defined Storage (SDS) 新製品「Hitachi Virtual Storage Software for block (VSS for block)」の3つが発表されている。これらを第1弾として、今後もラインアップを拡充していく方針。

日立従量課金型データ基盤ソリューションは、ストレージやサーバー、関連クラウドサービスを、サブスクリプション型（従量課金、月額課金など）から売り切り型まで、利用者の要望に応じた柔軟な利用形態で提供するもの。今回の発表では、そのラインアップに VSP 5200/5600 および VSS for block を追加している。これにより、日立ストレージの仮想化機能をパブリッククラウドまで拡張するデータ連携基盤を“as a Service”型で提供し、機密性などの観点からこれまでオンプレミスでの利用に限られていたデータをセキュアかつ透過的にハイブリッドクラウド全域で利用可能にしている。

同社 サービス&プラットフォームビジネスユニット ITプロダクツ統括本部事業主管の福田裕一氏は、日立ストレージの仮想化機能によって「他社ストレージや旧機種を含む 300 機種以上をひとつのストレージとして扱うことができる」と述べたうえで、今回はこの機能をパブリッククラウドにも拡張することで「クラウドストレージも“日立のストレージ”として扱えるようになる」と説明する。

「日立がサポートの範囲を広げたことで、高い信頼性を持った各種データの管理、運用技術が、クラウドストレージでも利用できる。クラウド連携の設計から構築までトータルに支援することができる」（福田氏）

また VSS for block は、日立では初めて製品化された x86 サーバー上で稼働する SDS である。ノード間でのデータ冗長化など、日立のストレージから継承したデータ保護技術や独自アーキテクチャによって、クラウド上でもミッションクリティカルシステムに匹敵する高信頼なデータ基盤をクラウド上でも実現するという。最小 5 ノードから最大 32 ノードまで拡張でき、高い信頼性を確保しつつ必要に応じて容量や性能を柔軟に拡張できる。なお今後はパブリッククラウドへの対応も計画しており、クラウド間をまたぐシームレスなデータ連携の実現を図る。

**新ソフトウェア・デファインド・ストレージ**  
「Hitachi Virtual Storage Software for block (VSS for block)」

ミッションクリティカル級の高信頼・高可用データ基盤を実現

- 高信頼と高速読み出しを両立
  - ノード間でデータを分散化
  - 独自ストレージから継承したデータ保護技術適用
- 導入容易性と拡張性を両立
  - 最小構成 x86サーバ x 5ノードで
  - 1ノード単位で、最大32ノードまで拡張
- VSPファミリーとの高い親和性
  - マイグレーション・リモートコピーサポート
- クラウドを跨るシームレスなデータ連携
  - パブリッククラウドサポート(計画中)

**新エンタープライズストレージ**  
「Hitachi Virtual Storage Platform 5200, 5600」

アプリ無停止・データ移行なしで次機種へアップグレード

- データ処理量の増加傾向を見ながら性能拡張
  - サブスクリプション<sup>1)</sup>で「適時アップグレード」<sup>2)</sup>
- データ圧縮時でも高性能
  - 圧縮時処理性能を約40%向上<sup>3)</sup>
- より環境に配慮
  - 消費電力を約65%削減<sup>4)</sup>、年間CO<sub>2</sub>排出量約1.20t削減<sup>4)</sup>

システム維持運用負荷の低減と投資保護でデータの長期利用<sup>5)</sup>を支援

**新製品となる SDS の「VSS for block」および「VSP 5200/5600」の概要**

### 3 つの「クラウド連携シナリオ」を紹介

EverFlex from Hitachi では、顧客ニーズに応じた具体的な「クラウド連携シナリオ」を挙げている。

たとえば「クラウド活用支援」シナリオでは、クラウドと連携したデータバックアップ運用を実現する。VSS for block を通じて AWS のクラウドリソースも仮想化し、透過的なバックアップ環境を構築すると同時に、データ管理や運用も統合する。今後、AWS 以外のパブリッククラウドにも対象を広げていく。

「クラウド移行支援」シナリオでは、ワークロードのパブリッククラウド移行に伴う作業負荷を極小化する。Veeam などのソフトウェアを利用してワークロードをクラウド移行する際に、VSS for block でストレージを仮想化してクラウドと連携。データをセキュアにバックグラウンドコピーして、環境切り替えに伴う業務停止時間を短縮する。

「クラウドネイティブ構築支援」シナリオ（今後提供を予定）では、ストレージの仮想化を通じてオンプレミスの本番環境とクラウド上の開発/テスト環境を連携。これにより、新規業務立ち上げに伴うクラウド上でのシステム構築においても、本番環境の業務データを安全に活用でき、データ運用の負荷も軽減する。さらに、クラウド上で構築したアプリ同士のデータ連携の支援も計画しているという。

EverFlex from Hitachi の提供価格は個別見積となっている。

**As a Service型クラウドソリューション - クラウド移行支援 -**

業務のクラウド移行に伴うデータ移行負荷を極小化

- セキュアにデータコピー
- バックグラウンドコピー完了後、即時利用可能

**As a Service型クラウドソリューション - クラウドネイティブ構築支援 (計画中) -**

企業システムのクラウドネイティブ構築を容易化・迅速化

- クラウド上でのシステム構築
- 新業務・テスト・開発環境
- 業務データの安全・安心利用
- バックアップ/リカバリ

**「クラウド移行支援」および「クラウドネイティブ構築支援」シナリオ**

なお日立製作所では、買収した米 GlobalLogic との国内協創活動の第 1 弾として、ストレージ事業における as a Service ビジネスモデル強化を題材に、共同でワークショップを実施していることを明らかにしている。ただし福田氏は、「今回の日立従量課金型データ基盤ソリューションには、その成果は直接反映されていない。だが将来の強化、発展に生かしたい」と述べている。

#### ■ 関連サイト

[日立製作所「EverFlex from Hitachi」](#)